

Bridge ~市民病院と地域をつなぐ~

— 目 次 —

- 院長からのご挨拶
- 新任副院長のご紹介
- 歯科・口腔外科 当科における遺伝学的取り組み
- 昇格・新任医師のご紹介

Vol.19
2023. 4月

発行：豊橋市民病院 患者総合支援センター
0532-33-6111 (内)1491

院長からのご挨拶

Bridgeは、地域連携登録医の皆様に豊橋市民病院の活動をお知らせする情報機関誌です。

この3月をもちまして、地域連携で皆様にお世話になった雄山副院長と、院内のコロナ対応の陣頭指揮をとった小山副院長が定年退職しました。今年度より、若林新副院長が雄山医師より地域連携を引き継ぎ、また、村松新副院長がコロナ対策を担当いたします。二人の新副院長に抱負を語っていただきました。本号では、消化器系の入り口である口腔内で重要な歯の欠損について紹介しています。最終ページでは、新医局長、新しく各診療科の責任者となった5人の医師を紹介しています。

当院は今後とも地域住民の方々の健康と生命を守って参ります。引き続きの皆様のご協力をよろしくお願いします。



院長 浦野 文博

新任副院長のご紹介

4月より副院長を拝命いたしました。また、同時に小山前副院長にかわり、感染症管理センター長も拝命いたしました。

5月に新型コロナが感染症法の5類に引き下げられます。コロナが広まって様々な感染対策が施されましたが、今後、国は感染対策を緩める方向です。しかし、ご高齢の方や免疫力の低い方達にとって、コロナの毒性はなにも変わりありません。

これらの患者様を守りながら、一方で皆様の利便性をはかっていくことになります。さらにそこに第9波がくるともいわれています。

相反する施策の中でご迷惑をおかけすることになるかもしれませんが、すべての患者様を守るためご理解とご協力をお願いいたします。



副院長
感染症管理センター長
小児科部長
村松 幹司

研修医時代を含めると豊橋市民病院にはおよそ25年在籍となり、人生の半分近くを豊橋で送ってきたことになります。専ら脳神経外科を通じて日々の診療に携わってきましたが、今後は病院全体を考えての職務となり、責任を重く受け止めています。

大任の1つに患者総合支援

センターがあります。個々の患者さんを通じて地域の先生方および各施設とを結ぶ場でもあり、これまで構築された地域連携の一層の強化・改善を図って参りたいと思います。

東三河地域は自然に恵まれた資源豊かな地域であると実感しています。日本全体が直面している地方の過疎化・少子高齢化の大きなうねりの中で、当院が地域医療の柱となり、この地域の住みやすさの基盤の一つとなれるよう努める所存です。



副院長
脳神経外科部長
若林 健一



歯科口腔外科医長
足立 潤哉

豊橋市民病院歯科口腔外科医長の足立潤哉と申します。

地域の先生方には日頃より多大なるご協力をいただき深く感謝申し上げます。

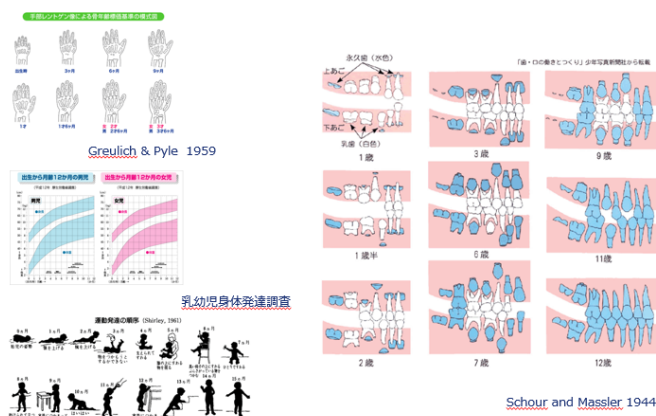
当院歯科口腔外科は顎顔面領域の疾患に幅広く対応している科となります。その中において口唇口蓋裂等の先天性疾患に対しても積極的に対応しております。先天性疾患の中には、顎顔面領域を含め様々なものがありますが、その中でも、先天性永久歯欠損症は、先天異常の中で最も発生頻度の高い疾患の1つで、多くは常染色体優性遺伝形式をとり、歯胚形成に関わるいくつかの遺伝子変異により発症すると報告されてきています。

歯の交換と成長

歯の発生には様々な遺伝子が関与しており、これまでに、歯数異常に関わる遺伝的病因を解明すべく研究されてきました。近年では、次世代シーケンサーを用いた全エクソーム解析により本研究を行っています。将来的には歯の再生を目標に進めております。当科もその研究の一端を担っておりその概要をご紹介します。

ヒト先天性永久歯欠損症は、先天性に永久歯の形成がない疾患であり、症候群性と非症候群性に分けられます。さらに、これらは智歯を除いた欠損歯数によって、5歯以下を hypodontia、6歯以上を oligodontia と分類されます。本疾患は多因子性に生じるとされ、これまで *muscle segment homeobox 1 (MSX1)*, *paired box 9 (PAX9)*, *wingless-type MMTV integration site family 10A (WNT10A)*, *axis inhibition protein2 (AXIN2)* 遺伝子が病因遺伝子として報告されてきました。

近年の次世代シーケンサーは、より効率的に原因遺伝子を同定することを可能とし、多くの希少疾患の原因遺伝子が同定されています。歯数異常の原因となりうる遺伝子解析とその遺伝産物の機能解析を行うことでその働きを解明しているところです。



永久歯欠損症の概略

	頻度 (%)	同胞再発率 (%)	レントゲン所見
Hypodontia 智歯を除く6本未満欠損	6.84	0.245	
Oligodontia 智歯を除く6本以上欠損	0.13	0.438	
Anodontia 無歯症	?	?	



過剰歯

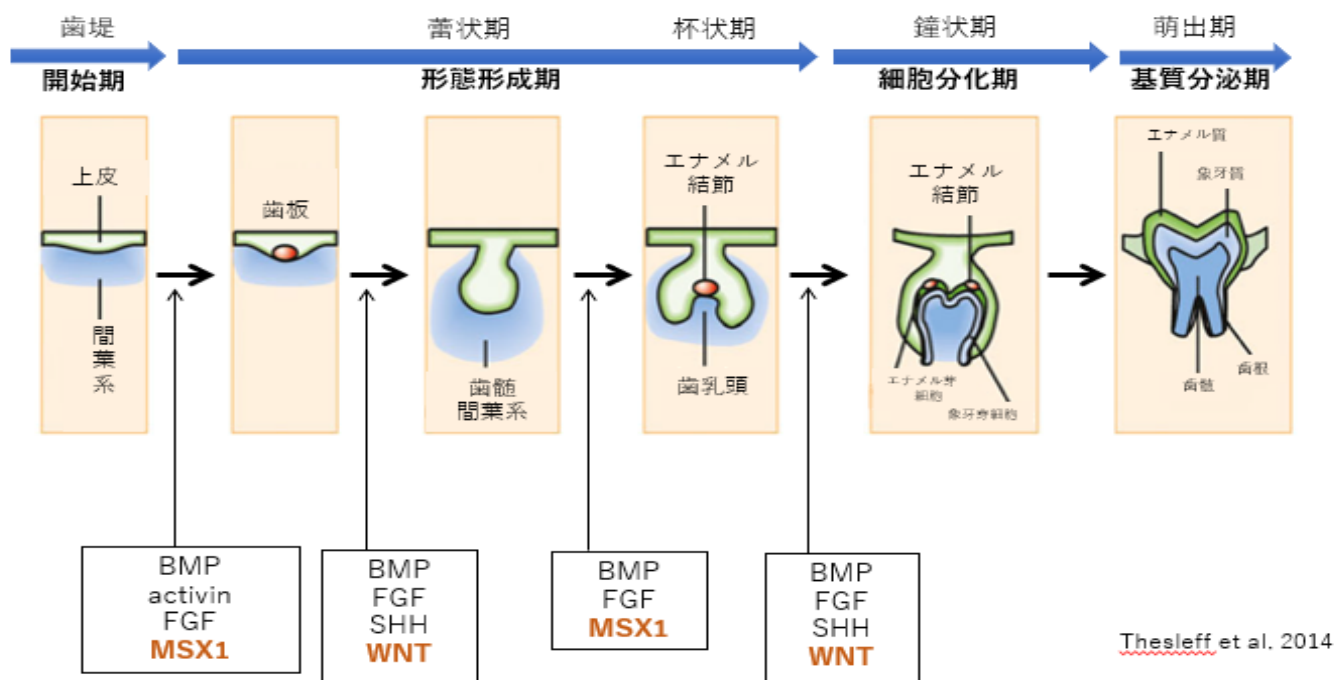


正常



歯牙欠損

歯の発生関連遺伝子



歯の形成は、責任遺伝子のKOにより停止する。

現在は、共同研究施設にて歯胚の成長を止めて2回目の生え替わりを抑制しているタンパク質を発見し、その働きを阻害する抗体を開発しています。動物実験では、先天性無歯症のマウスやイヌでも注射後4カ月で歯が生えるのを確認しています。今後ヒトでの安全性を確認する治験を開始し、その後有効性を詳しく検証する方針となっています。

最終的には、失われた永久歯の後継歯(第3生歯)を形成させ、一般の歯を再生するという歯科治療における新たな治療法の確立が期待されます。

現在歯牙欠損原因遺伝子の中から数種類の遺伝子に絞った上でノックアウトマウス等にて人工的に歯牙を発生させる研究が進んでいます。

我々の研究グループにてAMED等の支援を受けながら歯牙の再生を目標に分子標的治療の確立を目指しております。家族性大腸ポリポーシスや高脂血症といった全身疾患と歯数異常との関連も明らかになってきております。

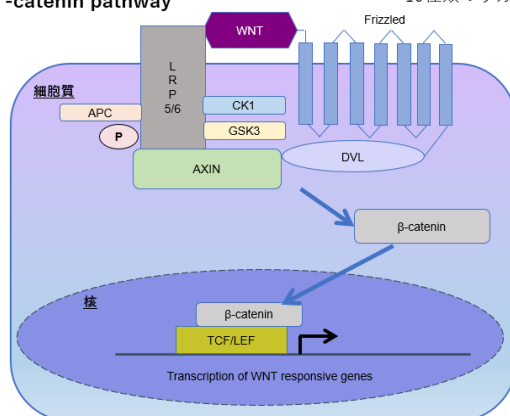
より多くのサンプルを解析することが、安全な試薬の開発や治療に必要となってくるため、歯数異常症例がございましたら、ご紹介いただければ幸いです。また今後治験が始まった際にも御協力いただけますと幸いに存じます。

WNT10A

WNT10A遺伝子とその役割

・ WNT/ β -catenin pathway

19種類のリガンドの1つ



昇格・新任医師のご紹介



医局長・外科部長
深谷 昌秀

この4月より医局長を拝命しました。私は平成7年5月に当院の研修医となり、4年間勤務し、国立がんセンター中央病院で食道外科を学び、名古屋大学第一外科で上部消化管グループのチーフとして12年間働き、令和3年1月に当院へ赴任となりました。21年ぶりに豊橋市民病院で働くこととなり、当時は病院が移転したばかりで新しかった手術室も、床の傷が目立ち、月日の流れを感じました。

赴任後、開業医の先生方、近隣の病院の先生方のおかげで、私の赴任前は食道癌手術症例が年間5-6例だったのが、去年は34例まで増え、手術、若手外科医の指導と非常に忙しい日々を送っております。

医局長として、少しでも院内の円滑な運営、地域医療に貢献できればと思います。



呼吸器外科部長
平松 義規

2023年4月より赴任致しましたのでご挨拶申し上げます。

呼吸器外科は、昭和20年頃の肺結核から現在の肺癌へと対象疾患が変遷しました。さらに術式も標準開胸とされた20cm程の後側方切開から4cmのみの切開で肋骨も切離さない単孔式胸腔鏡下手術に変化しています。さらに当科でもロボット手術が導入され、より精緻な手術も行われています。また切除する肺も機能温存を保つためより縮小し、かつ根治性を損なわない安全な術式を目指しています。

東三河地区の医療をより高いレベルで完結できるように努力して行きます。今後とも宜しくお願い致します。



形成外科部長
山本 将之

4月より形成外科部長として赴任いたしました山本将之と申します。

形成外科では体表のきず、きずあとやケロイド・瘢痕拘縮、生まれつきのあざや変形など、主に見た目にかかわる病態の治療を担当いたします。きずあとやケロイド・瘢痕拘縮などについては手術以外にも保存療法や相談のみの対応もしております。また、眼瞼下垂や眼瞼内反症などの外眼部の手術治療に多くかかわってまいりましたので地域の眼科の先生方のお役にもたてるかと考えております。皮膚皮下の良性腫瘍もダウンタイムが短く、きずあとが目立たないような手術をこころがけております。一人常勤ですので対応できない症例もあるかとは思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。



小児科部長
戸川 貴夫

この度小児科(新生児)第3部長として赴任致しました。私は平成13年弘前大学を卒業し、名古屋市立大学病院と関連施設で勤務してきました。臨床では新生児医療を中心に、前任地の名古屋市立大学病院では新生児乳児胆汁うっ滞疾患の遺伝学的解析を研究として取り組みました。遺伝学は10年ほど前から次世代高速シーケンサーの登場により分子遺伝学的解析が飛躍的に進歩しました。私はこの技術を用い胆汁うっ滞の遺伝子パネル検査を構築し、さらに全エクソーム解析にも繋げて研究を行いました。

今後は東三河医療圏と静岡県西部地域で活躍されている皆様と協働し、臨床、研究、若手教育に奮闘できればと思っています。よろしくお願い申し上げます。

糖尿病・内分泌内科部長
萩本 繁

これまでと同様に東三河地域の内分泌代謝領域の診療を共に担ってまいります。下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・性腺・二次性高血圧の診断等、内分泌学的な解釈が要求される場面で少しでもお悩みの場合はご連絡をお願いします。原発性アルドステロン症の副腎静脈サンプリングは放射線科と連携して対応します。甲状腺・副甲状腺の機能異常は当科で、腫瘍は当科と各外科系診療科間で連携して対応します。代謝領域では糖尿病診療の全体的なアップデートに常時努め、特に透析予防を強化していきたいと考えています。肥満外科手術についてご紹介いただく場合は、当科が窓口となります。内分泌代謝疾患を合併した妊娠症例についても遠慮なくご紹介ください。該当疾病領域における小児科から当科へのトランジションを随時承ります。病診連携を通じて効率的に質の高い医療を提供することで患者さんの健康と幸福を最大化すべく共に努めていく所存です。